

<2017年3月期 第2四半期>

第2四半期補足説明／成長戦略説明資料

データセクション株式会社

2016年11月14日

証券コード：3905



1. 全体サマリー

2. 2017年3月期 第2四半期実績

3. 下期トピックス

4. 中・長期的な展開

5. データセクションの事業コンセプト

6. コーポレートメッセージ

2 Qの実績について

- ▶ 第2四半期（3カ月）の売上高は、当第1四半期比167%、前年同期比178%となり、四半期ベースで 過去最高の売上高を達成。
- ▶ 第16期上期経常利益 4 百万円に対し、第17期上期経常利益23百万円と前年同期比 543%の増益。
- ▶ ディープラーニングの研究開発分野が第2四半期売上増に寄与したが、今後は研究開発から実稼働への移行を進め、継続的な事業として売上の定常化を目指す。

3 Q/ 4 Qに向けた 2 Qの施策

- ▶ A I 画像解析事業、海外インバウンド事業の受注が好調。下期に売上を計上予定。
- ▶ 第2四半期に共同通信イメージズ及びインテージと資本業務提携。下期、メディア向けコンテンツ販売事業や共創メディア事業の展開を行い、売上拡大を目指す。

中長期に向けた 2 Qの施策

- ▶ I o T 社会におけるプラットフォーマーのポジションを確立すべく、新規ビジネスの種まきを実施。将来爆発的な売上が期待できるビジネスの創出を目指す。
 - ・ 自動運転
 - ・ アグリテック
 - ・ フィンテック
 - ・ ロボテック

1. 全体サマリー

2. 2017年3月期 第2四半期実績

3. 下期トピックス

4. 中・長期的な展開

5. データセクションの事業コンセプト

6. コーポレートメッセージ

- ▶前期からの積極的な人材投資活動を継続することにより、前年上期を上回る営業費用（+22%）を計上するも、それを上回る売上（+38%）の伸びを実現
- ▶前年上期は営業利益がマイナスであったが、今期は第2四半期時点で前年通期の営業利益を計上

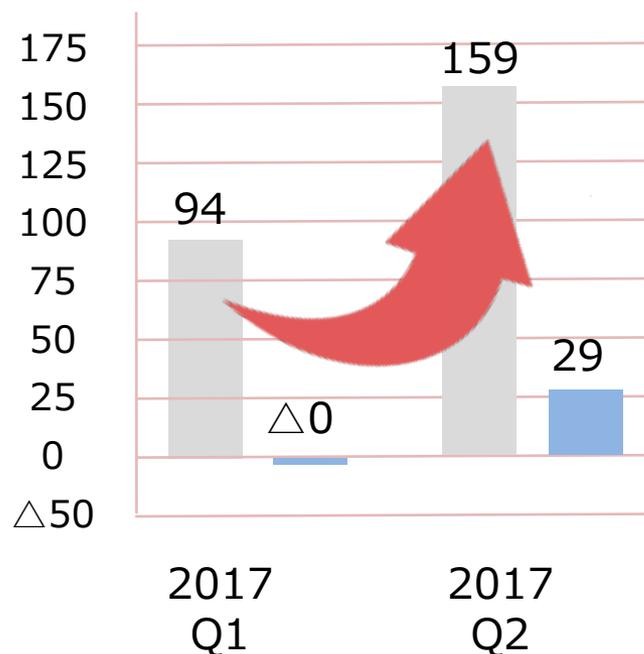
（単位：百万円）

	第16期 （通期）	第17期		増減額	増減率
		第16期 （上期）	第17期 （上期）		
売上高	439	183	254	71	38%
営業費用	411	184	225	41	22%
営業利益	28	△0	28	29	—
経常利益	36	4	23	18	442%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	26	2	12	9	356%

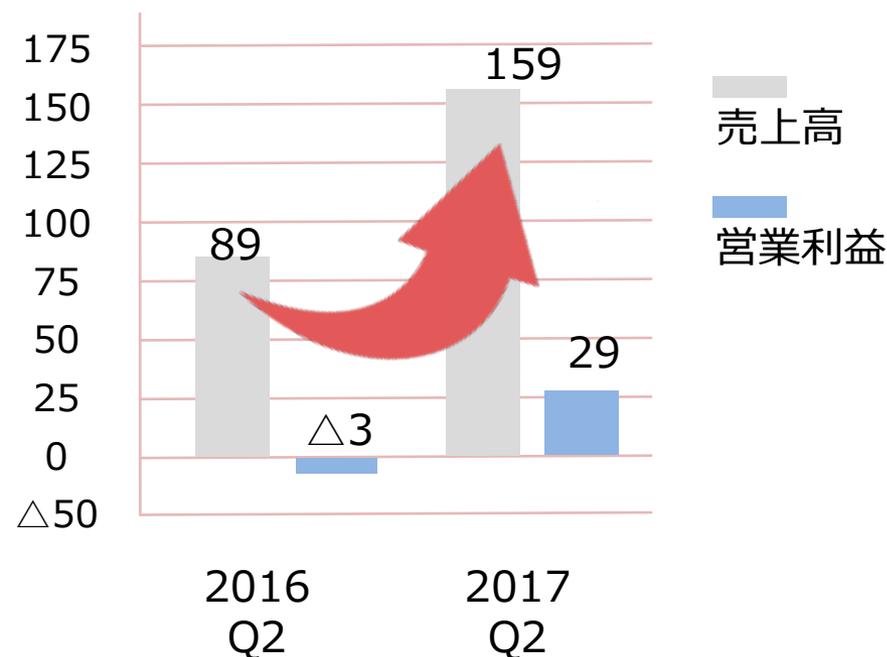
▶ 2017年3月期第2四半期の売上は、当第1四半期比167%、前年同期比178%となり、四半期ベースで過去最高を記録

▶ ディープラーニングの研究開発分野が第2四半期の売上増に寄与したが、今後は研究開発から実稼働への移行を進め、継続的な事業として売上の定常化を目指す

(単位：百万円)



当第1四半期比



前年同期（3カ月）比

- ▶流動資産の増加は、現金及び預金の増加（19百万円）が主要因である
- ▶固定資産の増加は、投資その他の資産の増加（43百万円）が主要因である
- ▶負債の増加は、未払金の増加（11百万円）及びが未払法人税等の増加（10百万円）が主要因である

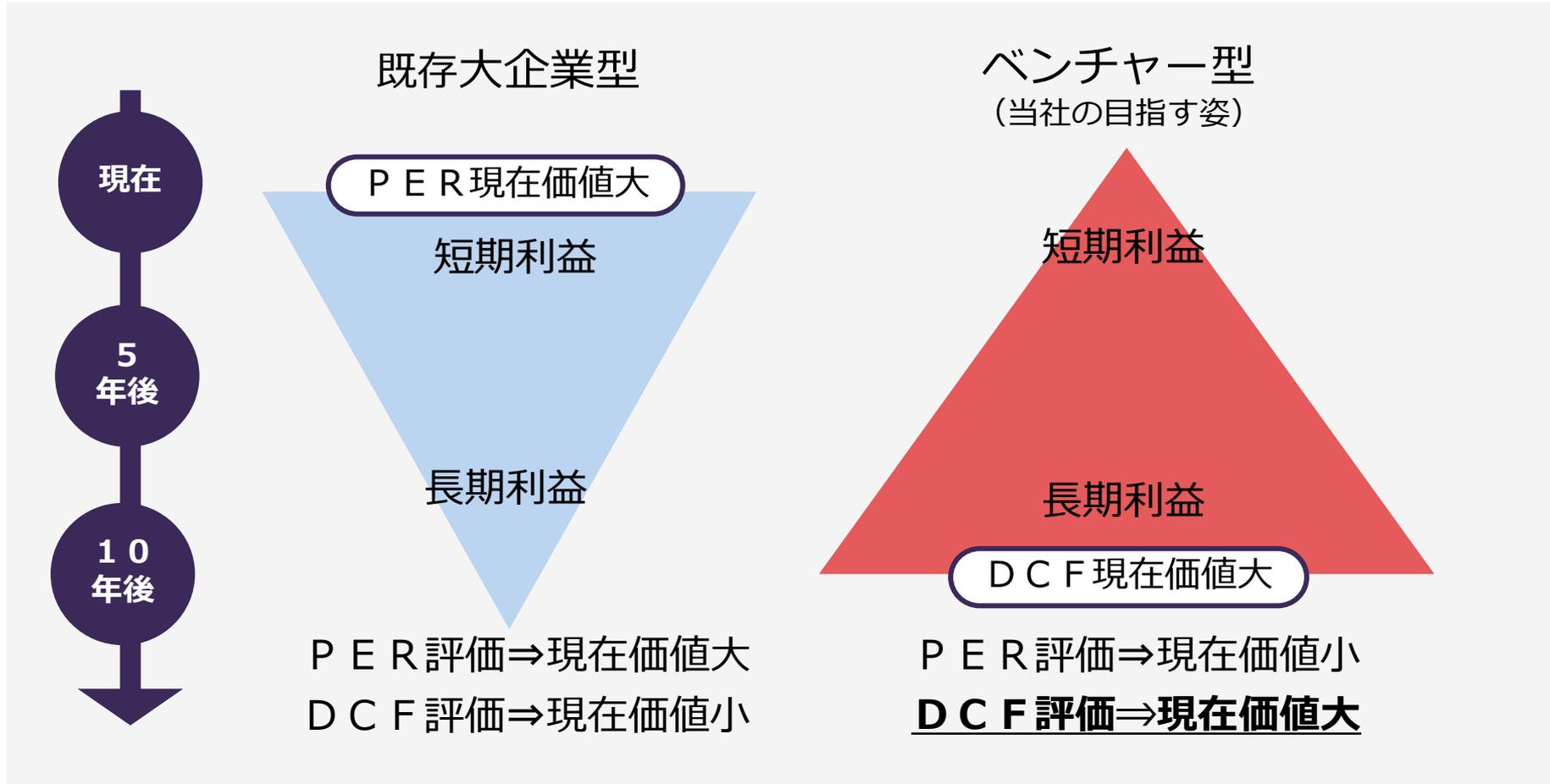
(単位：百万円)

		第16期末 (連結)	第17期 第2四半期末 (連結)	増減額
資産	流動資産	852	871	19
	固定資産	214	270	55
	資産合計	1,066	1,141	75
負債純資産	負債合計	54	96	42
	純資産	1,011	1,044	32
	負債純資産 合計	1,066	1,141	75

長期的な成長の重要性

データセクションの経営方針 = DCF基準での現在価値最大化

→短期的な売上最大化ではなく、長期的な成長を重視し、人材・開発に積極的に投資



1. 全体サマリー
2. 2017年3月期 第2四半期実績

3. 下期トピックス

4. 中・長期的な展開
5. データセクションの事業コンセプト
6. コーポレートメッセージ

AI関連

- ▶ ディープラーニング技術を活用した画像フィルタリングサービスは3 Q以降の受注状況も順調。
- ▶ AI画像解析でのCEATEC出展により、新規顧客からAI画像解析の問い合わせが多数。
- ▶ 画像フィルタに次ぐ新たな領域として防犯、医療、農業分野での多数の引き合い。

海外インバウンド

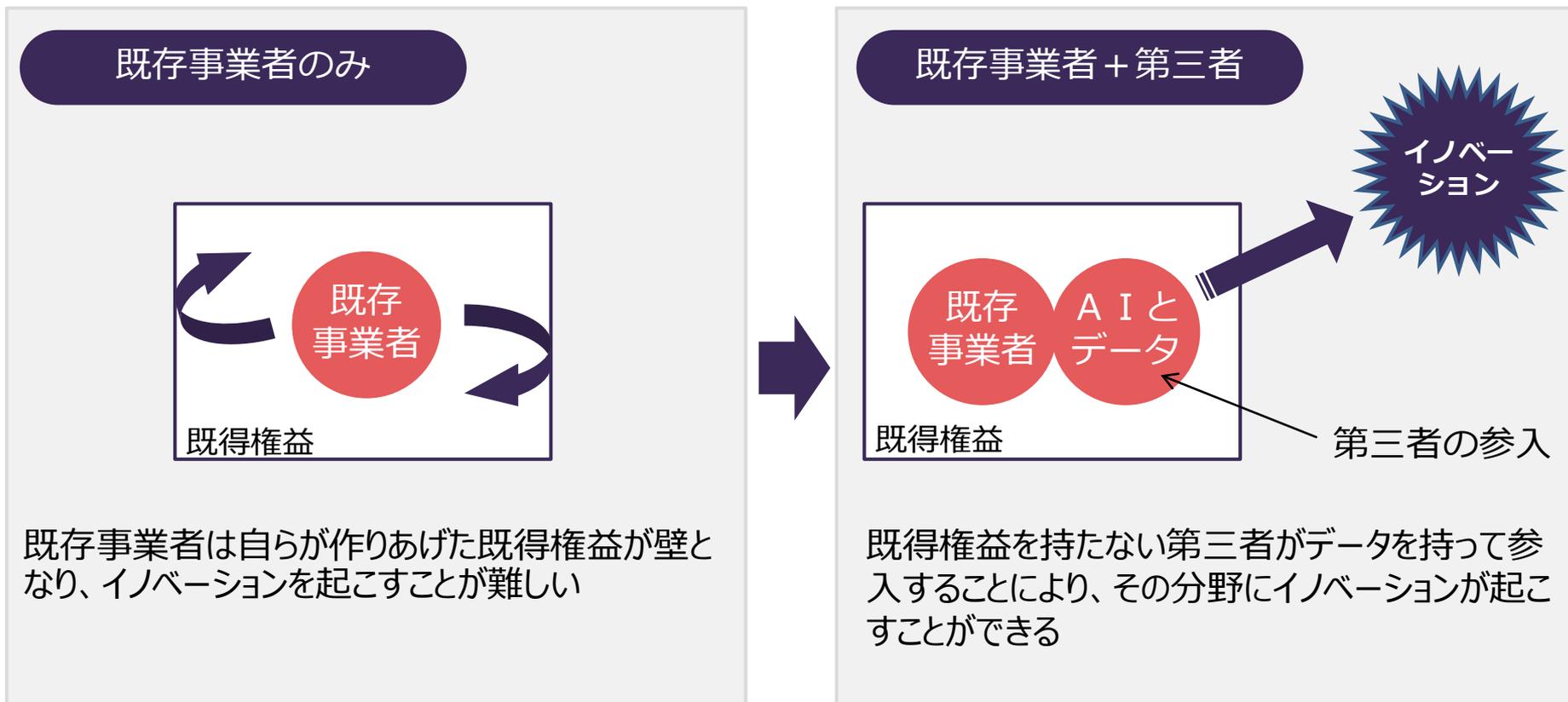
- ▶ レポート事業は引き続き高い需要があり、各都道府県・市町村との商談が進行中。
- ▶ 政府機関や地方自治体などへの納入実績をもとに、引き続き大型受注を目指す。
- ▶ 訪日観光客の分析データをもとに、他事業への横展開を施策検討。

業務提携

- ▶ (共同通信イメージズ) ユーザー投稿画像災害検知システムの、マスコミへの拡販
- ▶ (インテージ) 生活者と企業をつなぐ共創メディア事業の展開
- ▶ (TBS) AI・ディープラーニング等の最新技術を活用したメディア事業での新たな価値創造を目指す

1. 全体サマリー
2. 2017年3月期 第2四半期実績
3. 下期トピックス
- 4. 中・長期的な展開**
5. データセクションの事業コンセプト
6. コーポレートメッセージ

AIとデータでイノベーションを生み出す



データセクションはAIとデータで、様々な業界の革新的なビジネスの創出を実現いたします

I o Tの普及により、データがあふれる時代へ

新たなビジネス領域の確立



AIによる解析

ビッグデータ

容易にビッグデータ化



自動運転×データセクション



TREND

- ▶ ディープラーニング技術を活用して、車載カメラの映像をもとに状況判断、自動運転をサポート

データセクションの取り組み

- ▶ 大手自動車メーカーとの共同開発により
深度推定、行動軌跡分析、領域分割などの技術の確立
- ▶ 自動運転を支える重要技術のデファクトスタンダードを目指す

アグリテック×データセクション



TREND

- ▶ ディープラーニング技術によりその土地の需要、気候などを監視、分析、判断し、最適な作物を生育
- ▶ 農作物のビッグデータ化による、農家の生産能力の可視化

データセクションの取り組み

- ▶ I o T事業者、海外事業者とアライアンスへ
- ▶ 海外の農作業界にアグリテックを導入し、農業改革を推進。生産量予測をもとに与信判断を行うことで、金融分野へのビジネス参入を目指す

フィンテック×データセクション【与信判断】



TREND

- ▶ データ化された証憑、銀行データをもとに人工知能が経理処理
- ▶ 会計システムのクラウド化により、仕訳データを集約。与信判断や経営分析の自動化へ

データセクションの取り組み

- ▶ 自動仕訳の特許を保有する企業とマネーデータバンク(株)を設立し、自動仕訳エンジンの開発に着手
- ▶ 会計ソフトの自動仕訳機能のスタンダードポジションとなり、集積したビッグデータをもとに与信判断、経営分析を行うことで、金融分野へのビジネス参入を目指す

フィンテック×データセクション【ファンド】



TREND

- ▶ 株、為替取引におけるA I を活用した自動取引の重要度の拡大

データセクションの取り組み

- ▶ ディープラーニング技術を活用した、株価変動を予測に基づくファンドを2015年に設立
- ▶ ファンドマネージャを超える運用パフォーマンスを実現することにより、人手運用からA I 運用への転換というイノベーションを起こす

ロボテック×データセクション



TREND

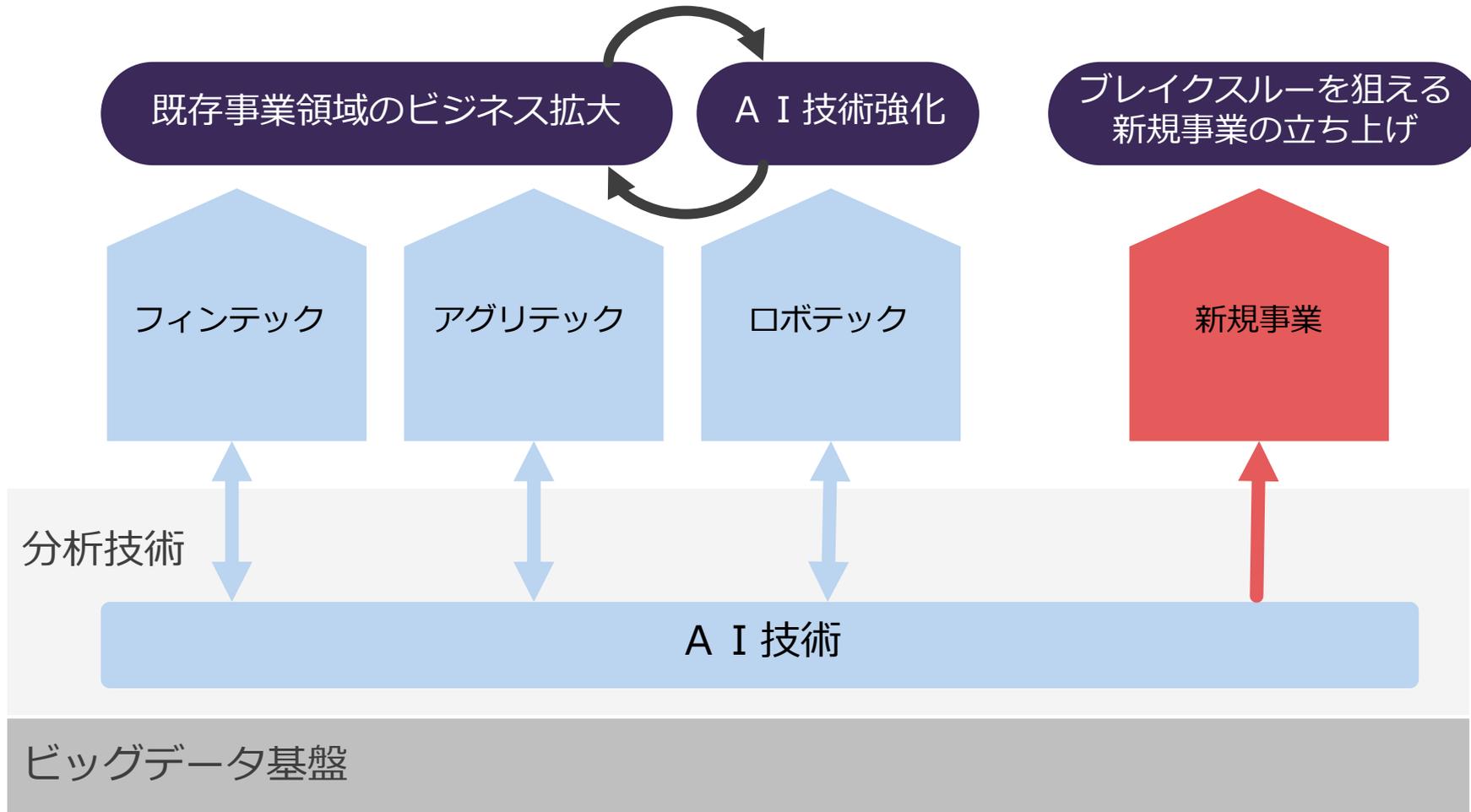
- ▶ 自動応答による国内コールセンターの効率化
- ▶ 音声アシスタント端末をはじめとした新しいユーザーインターフェースの出現

データセクションの取り組み

- ▶ ハウスコム(株)、(株)ビットエー、慶應義塾大学と協業し、ディープラーニング技術と自然言語処理により感情を理解するカンバセーションエンジンを開発
- ▶ 対話型ロボットのコア技術の、デファクトスタンダードを目指す

A I 技術を既存ビジネスに展開

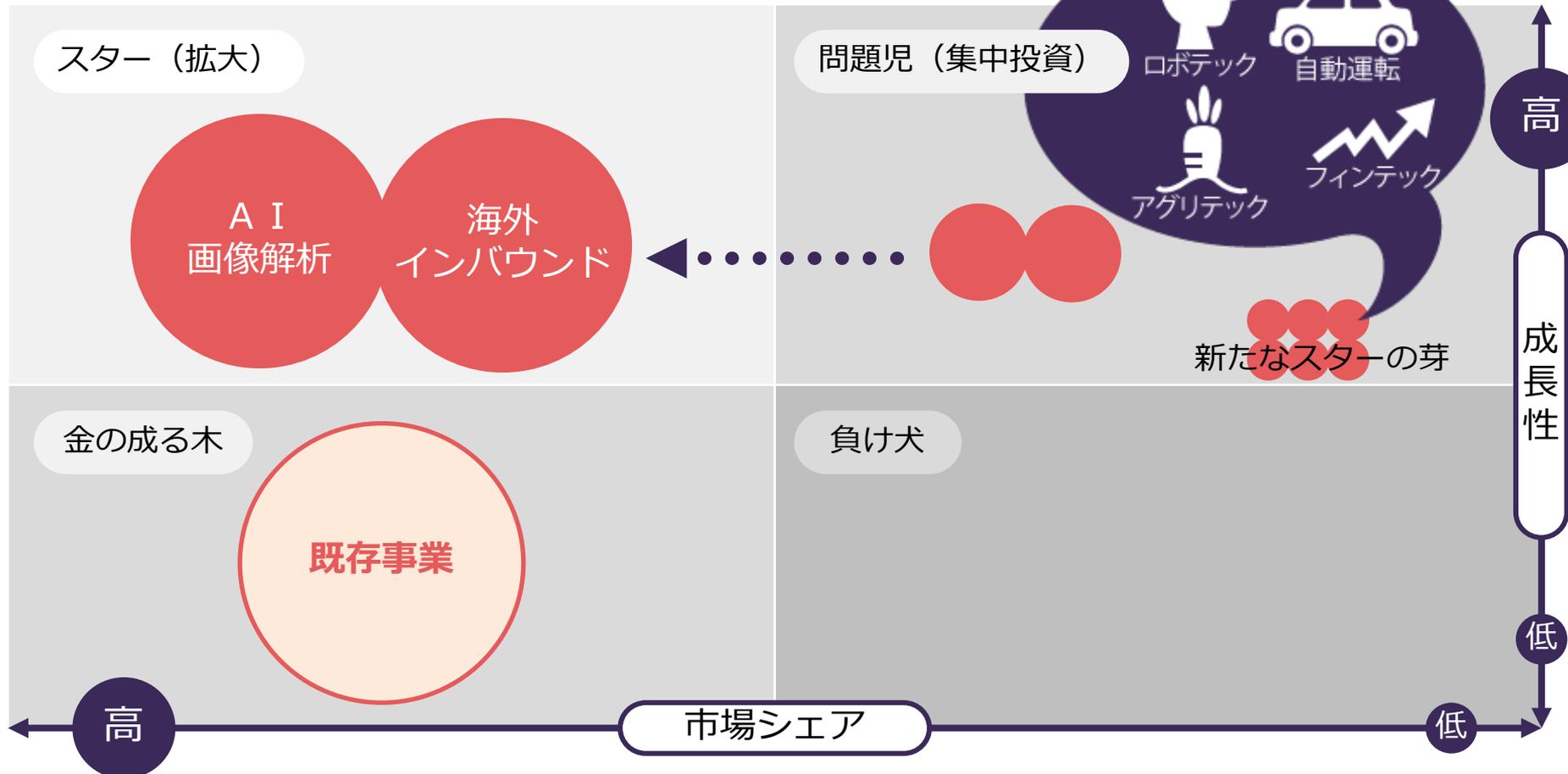
→ さらに新規事業を創出することで、新たな収益を生む



1. 全体サマリー
2. 2017年3月期 第2四半期実績
3. 下期トピックス
4. 中・長期的な展開
- 5. データセクションの事業コンセプト**
6. コーポレートメッセージ

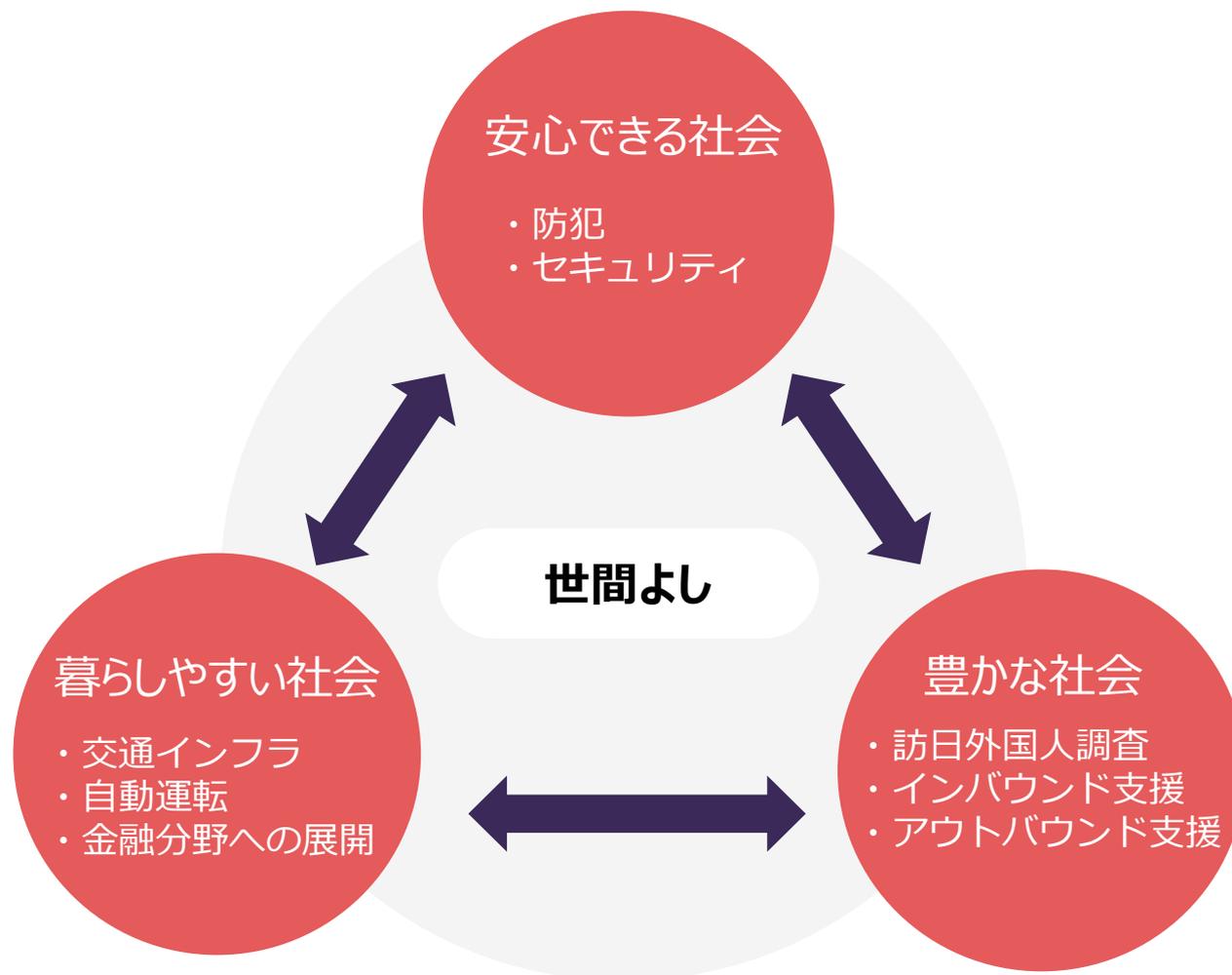
今後の事業展開イメージ

I o T 社会に向けて立ち上げたスターの芽を、
将来爆発的な売り上げが期待できるビジネスへと成長させる

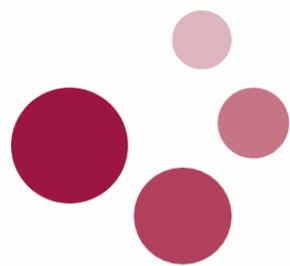


売り手よし、買い手よし、世間よし

社会インフラとしての価値を創出するべく、公共性の高い事業への積極的な取り組み



1. 全体サマリー
2. 2017年3月期 第2四半期実績
3. 下期トピックス
4. 中・長期的な展開
5. データセクションの事業コンセプト
- 6. コーポレートメッセージ**



DATASECTION

未来のビジネスを AIとデータで創造する

- 本資料は投資家の参考に資するため、当社の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しで、リスクや不確実性を含んでおり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。従いまして、これらの業績予想のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。